

東二見瑞応寺の仏足石

○瑞応寺(ずいおうじ)

山陽電車東二見駅の南東約600m。東二見の人々に「大寺」と呼ばれているのが、東海山瑞応寺です。江戸時代まで東二見全域の檀家の教化にあたり、村の菩提所となっていたので、「親寺」と呼ばれていたのが、いつからか大寺に変化したと考えられています。加古川の鶴林寺と同じ時代の創設と寺伝にあります。

○仏足石(ぶっそくせき)

瑞応寺の境内に、明石では唯一といわれる「**仏足石**」がお堂の中に大切に保存されています。

仏足石はお釈迦様の足裏を刻んだ石で、これを恭敬すると無量の罪障を滅ぼすとされています。



瑞応寺のものは、右の写真の通り、右足のみが刻まれています。また、立方体の石の別の面には「貞和丁亥建長竺仙始参刻伝之四方応永庚辰口重於結縁将来者也」との銘があり、貞和丁亥は貞和3年(1347)、応永庚辰とは応永7年(1400)のことです。

左の解説図は左足です。瑞応寺(右足)の仏足石にも同様の文様が刻まれています。

- ①月王相文(燃える月)
- ②花文相文(花形をした卍)
- ③金剛杵相文(杵と結び紐)
- ④双魚相文(二匹の魚)
- ⑤宝瓶相文(宝のはいった壺)
- ⑥千輻輪相文(法輪)
- ⑦梵王頂相文(五つの山と雲と太陽と三宝形)
- ⑧螺貝相文(法螺貝)

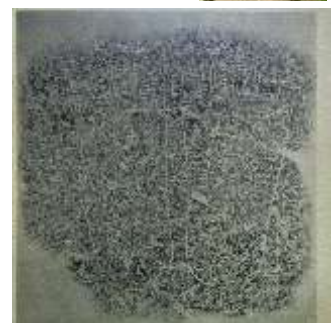


【参考】薬師寺の「国宝 仏足石」

奈良県の薬師寺は天武天皇により発願(680年)、持統天皇により本尊開眼(697年)、文武天皇の時代に飛鳥の地において堂宇が完成。その後、平城京への遷都(710年)に伴い現在地(奈良市西ノ京町)に移されました。金堂の中にある薬師三尊像は白鳳時代の国宝。東塔は、教科書にも載っており、律動的な美しさを保ち、「凍れる音楽」という愛称で親しまれている国宝です。最近修理が終わったところです。



この薬師寺の大講堂後堂に、「**国宝 仏足石**」が安置されています。仏足石は、正面の高さ 69 cm 上面の奥行 74.5 cm 横幅 108 cm ほどの六面体に近い不規則な形の石で、やや平らに整えた上面に線彫りの仏足跡(両足)が刻まれています。また、銘文には、「インドの鹿野苑にあった仏足跡を、唐の王玄策が写し帰って長安の普光寺に置いたのを、遣唐使の一人が入唐して写し、平城京の寺院に伝えた。それを文室真人智努が、夫人の追善供養のため、絵師越田安方に写させ、石手某麻呂に刻ませた。天平勝宝 5 年(753)7月27日に着手し13日を要した」と記されています。



○仏足石など仏教文化の伝播

大きな報徳大地蔵尊で知られる明石市船上町の密蔵院の境内にも最近(平成)に新しく作られた仏足跡があります。インドで起こった仏教は、中国などを経て、日本にも伝播しました。仏教文化は經典、仏像、寺院建築など様々な形で伝わってきますが、仏足石もその一つです。飛鳥、白鳳、天平文化では、仏教の力で国を治める鎮護国家思想が強まり、疫病や災害など社会不安から人々を救う動きが見られました。



【参考文献】『新明石の史跡』(あかし芸術文化センター 1997年)

『石に刻む』(明石仏教青年会 昭和57年) 『薬師寺』(薬師寺 平成20年前後)